

今回の瓦版は、会員以外の世帯にも
配布させていただいています！

* 瓦版は、3月25日・7月25日・11月25日の年3回の発行です。

* 本瓦版(pdfファイル)は、携帯ホームページ「富田林寺内町の探訪」からダウンロードすることもできます。

第62号

発行・編集：富田林寺内町をまもり・そだてる会／じないまち交流館

富田林市富田林町9-29(じないまち交流館)

平成27年11月25日 (1)



JINAIMACHI KAWARABAN Vol. 62

瓦版/62号

題字 / 本岡 那菜さん 9歳 (一里山町)



福住小学校
二宮金治郎の像

去る十月十一日(日)、霧雨が顔をにかかると、空も空も顔を気にしながら集合場所に着くと、皆さん既にお揃いだったよ。加者三十一名を乗せたバスは一路見学先である兵庫篠山(ささやま)市福住(ふくずみ)へと向かった。ドライバーはベテランのようすで、道路状況などに合わせた上手な運転だった。ガイドさんも学校を出てまだ半年目という若さで、自己紹介や沿線の歴史や風景の説明も懸命で初々しいものだった。

目的の福住地区は、古くから開けた西京街道に面しており、江戸時代に篠山藩から宿駅に指定されてからは、農業の傍ら宿場町として繁栄した。本陣や副本陣が置かれ、旅籠(はたご)や茶店も増え、役人の詰所もあったという。

福住公民館に着くと町内を案内してくださる方々が待っておられ、一息入れてから案内をお願いした。表通りの道幅はわが寺内町よりかなり広く、車の通行も割と多かった。でも人影はあまり見られず、空き家もそこそこに見られ、ここでも人口の過疎化がかなり進んでいるように感じた。それというの、道沿いに三十数名、来年には近隣の二校と統合されるという。また、市の中心部と結ぶバス路線も、二社あるとはいえず、各々一町四本しかないのは驚いた。

まもり・そだてる会 会員見学会へ兵庫篠山市 福住地区



福住の民家



福住の町並み

そこには黒大豆の枝豆や丹波栗などが置かれていたが、新鮮さと品質の良さが買われ瞬く間に売り切れとなつてしまった。続く昼食は王地山公園にある「ささやま荘」での懐石料理。次々に出される料理は手際がよくて味付けも良く、ゆっくり味わうことができた。当日、篠山市内では「味まつり」の催しがあったため中心街を外したコースであったが、地元の方の親切な案内とゆとりあるコース設定でゆつくり楽しめ、往き帰りの道中も寺内町に暮らす者どうし、和気あいあいと過ごすことができてよかったと思う。

富田林寺内町と福住地区とは、伝建地区としての立地条件は異なっているが、抱える問題は同じようなものだと感じた。それにつけても、町の活性化を図ろうと考へてくださる「まもり・そだてる会」の役員さん方の、日頃の研鑽とご努力に感謝する次第です。
(富山町 神谷雅三)

まもり・そだてる会活動報告

月	日	会議名	内 容
7	26	企画事業部会	・寺内町燈路の開催について ・半紙希望調査・販売用行灯等の交流館への移動等
		役員会	・部会報告(特に寺内町燈路について) ・寺内町清掃について
8	7	研修部会	・会員見学会と理事研修会の日程と行先について ・寺内町清掃について
	11	理事会	・各部会の報告(燈路、会員見学会・理事研修会) ・寺内町清掃について
	30	企画事業部会	・寺内町燈路の片付け ・月見の会について
9	3	役員会	・各部会報告・寺内町燈路の総括 ・月見の会について・万里春酒蔵の利用について
	29	研修部会	・会員見学会の日程・行先・費用について ・理事研修会の日程・行先・費用について
10	1	役員会	・各部会報告(会員見学会・理事研修会の費用等) ・月見の会総括・四季物語実行委員会報告
	30	広報部会	・瓦版62号確認、印刷、配布について ・瓦版63号原稿について
11	13	役員会	・各部会報告・平成28年度事業計画案について ・新春初鍋めぐりについて 他

「寺内町四季物語2015夏 第12回寺内町燈路」報告

今年の寺内町燈路(主催：じないまち四季物語実行委員会、共催：当会、観光協会)は8月29日(土)に実施されました。当日は時折大粒の雨が降り開催が心配されましたが、午後六時半頃には、寺内町とその周辺には約1000基の行灯が並べられました。雨の様子をみながら、ローソクに灯が入られると、美しい町並みが映し出されました。浴衣姿の来場者もお見かけしました。また浄谷寺では講師の『旭堂南陽』さんによる怪談話もあり、場所がお寺ということもあって多数の聴衆の方が緊張して聞いておられた様でした。その他ライブ、アートクラフトマーケット、子供縁日などがあり、例年よりは少なかったものの、多くの来訪者で賑わいました。当日の参加者は2,300人(四季物語実行委員会発表)でした。皆さん、ご参加、ご協力ありがとうございました。
(企画事業部会)

「第6回 寺内町月見の会」報告

暑さが和らぐ秋はお月見の季節です。今年の9月28日は月が地球に最も近づくスーパームーンと呼ばれる日でしたが、前日の9月27日(日)には、展望広場にて、「第6回寺内町月見の会」が会員相互の親睦行事として開催されました。展望広場のあたり一面が薄暗くなった頃、東の空から山吹色をした大きな真ん丸のお月さんが明るく見えました。今年5月からは、宇宙飛行士の油井亀美也さんが国際宇宙ステーション(ISS)に長期滞在されています。8月には、日本の物資補給機「こうのとり」5号機が打ち上げられ、ISSとドッキングしました。近い将来、お月さんに「一週間の旅行」に行っていきます、という様な時代が来るかもしれません。約120人の会員が参加され、用意されていた月見団子は子供達やご家族の方々でおおいしく頂き、盛況の内に月見の夕べを終えることができました。皆さん、ご支援、ご協力ありがとうございました。
(企画事業部会)



9月12日(土)に「富田林寺内町の歴史講座と町並みツアー」を開催しました！

じないまち交流館の自主事業として、市文化財課の森口博正氏のご協力を得て実施。当日は好天に恵まれ、地元を含め、金剛団地や狭山市、堺市や神戸市等からも計20名の参加者があり、盛況の内に終えられました。終了後、歴史のことがよくわかった、楽しかったと好評でした。今後も随時開催したいと思います。
(じないまち交流館 中井隆洋)

☆ 交流館だより ☆

◎ ギャラリー 展示予定

- 十一月一日～十二月十五日
パッチワークの会 パッチワーク作品展
- 十二月十六日～一月十五日
富田林幼稚園 皿・茶碗・絵画作品展
- 一月十六日～一月三十一日
井元ミツ子 浮世絵・童画作品展
- 二月一日～十四日
野之上信枝 亡夫撮影の写真作品展
- 二月十六日～二月二十八日
土筆の会 書道作品展
- 三月一日～十五日
じないまち交流館 お雛さま展示
- 三月十六日～三十一日
小田中真紀子代表 写真作品展と日本画展

富田林寺内町 来訪者 歓迎キャンペーン

こんにちは！ 笑顔であいさつ 歓迎を

我が町 寺内町 見どころ記(11) 一寺内町の良さ再認識

前号(瓦版61号)の見てある記(二)の続きです。

【2】富田林寺内町での散策

(8)蔵(内蔵と外蔵)

寺内町の商家には様々な種類の蔵を持つているお家があり、蔵とは、色々なものを保管管理しておく場所と定義できるでしよう。奈良の正倉院は国宝を収納し、保管管理する蔵として有名です。

商家の蔵を大別すると、内蔵(母屋などの家の中心部分に造られたもの)と外蔵(母屋の外に厚い漆喰壁で造られたもの)に区別できます。

内蔵は金庫の役割で造られたもので、お金や証書、印鑑などを保管した金庫の様なものだったのではありません。

一方外蔵は書画、骨董を始めとして、米・木綿・衣装・酒など様々なものを保管した保管庫の役割で造られたものと考えます。

寺内町の外蔵には、南葛原家の三層蔵や田守家の米蔵(米を保管するために、風通しが良くなるように置屋根になつていて、屋根が浮いている様になつている)など見所の外蔵が沢山あります。

(9)井戸

昔の寺内町の町屋にはほとんど一軒に1個の井戸があり、また4個の家の隣の井戸には3個あります。寺内町の井戸の水は非常においしかった事を今でも覚えています。この良い水を利

用して寺内町の中には、酒造業を営まれる商家や、みりん・みそ・醤油の様な醸造業を営まれる商家が多数ありました。炊事・洗濯・風呂用・花にかけたりなどいろいろな使われ方があります。また別の方法として、「スイカ」や「ビール」などを網かごの中に固定して井戸に吊るすというのもありました。時間が経過すると適度に冷えて「スイカ」などがおいしく頂け

るといわけです。現在の冷蔵庫の役割としても利用されてきました。

私の家の前にも井戸があり、遊びから帰った時は必ずその水をくみ足・顔を洗ったものです。夏の夕方などには井戸端に縁台などを出して「花火」や「将棋」などをして遊んだことが思い出されます。

(10)興正寺別院

興正寺別院を構成する建造物(本堂、対面所、鐘楼、鼓楼、山門、御成門)が昨年9月18日に国の重要文化財に指定されました。また、興正寺別院は浄土真宗の寺院本堂としても大阪府内では最古の建造物でもあり、古い時代のお寺の伽藍配置が良好に保存・維持されていること、寺内町(国の重要伝統的建造物群保存地区)の中核となつてい

るお寺である事などが高く評価されました。以下に構成する建造物について記載します。

【1】鼓楼(重要文化財) 境内の北東隅に建つていて、土蔵造り二階建ての建物です。中に鼓ではなく、大きな太鼓が入つていて、それを打ち鳴らすことで時刻を告げたとされています。

【2】鐘楼(重要文化財) 境内の南東隅に建つていて、四面は吹き放しで、中央に鐘が吊されています。釣鐘は、春季祭(証秀上人の開基祭)と秋季祭(親鸞上人の報恩講)及び除夜の鐘で鳴らされます。

【3】御成門(重要文化財) この門は江戸時代末期に移築された棟角(ムネカド)形式の門で、山門の北側に並び建つています。小規模ながら装飾性の高い門であり、その建築時代は18世紀中期に遡りますが、元々どこに建つていたかは不明です。安政4年(1857年)に京都興正寺から山門を移築することに合せて現在の所に移築されたと考えられています。

【4】山門(重要文化財) 城之門筋に表門を開いていて、桃山時代の名残をのこす格調高い山門です。元伏見城の門

と言ひ伝えられてきた京都興正寺の北門を再移築したと言われます。城門であったため、規模が大きいのが特徴です。馬に跨つても通行できる高さがあります。寺内町のメイン道路でもある城之門筋(日本の道百選)の名前は、この山門にちなんだもの

です。この山門の構造は前方(外側)に二本、後方(内側)に二本の四本の柱で屋根を支えています。特徴は、中心の棟が、前の柱と後ろの柱の中間に位置せず、やや前方にくることです。したがって前方の二本の柱が本柱として後方のものよりやや太く、加重を多く支える構造になってい

ます。また、この山門の事を「薬医門」(ヤクイモン)とも言われています。「ヤクイモン」のいわれは、室町時代には武家屋敷のほか、医師の門として使われたことか

らと言われています。また、一説には矢の攻撃を食い止める「矢食い」(ヤグイ)から「矢食門」とも言われています。

【5】対面所(重要文化財) 江戸時代末期の建築で、本堂の北側に隣接して建つています。正面は唐破風造りの式台玄関とし、奥座敷は一段高い上段の間となつていて、対面所としての機能と格式を備えています。

【6】本堂(重要文化財) 本堂は1638年再建されました。浄土真宗寺院の本堂として、大阪府内では最古のものと

言われています。昔は春の開基祭には小学生が多数参拝しお菓子が配られ、通りには出店が開いて大変にぎやかだった様子が描かれています。阿弥陀如来、松竹梅の七孝の話の彫刻などがあります。

【7】富田林開基証秀上人記念碑(本堂右手前)にある高さ6m程の石造の碑) 明治27年に建立されたもので、これは、富田林が河内南部一番の繁栄の地になったことに對して、証秀上人の偉業を讃えた町民が町をあげての事業として建てたものです。かつては上人の忌日4月14日は、別院で大法会を行い、毎月14日は「お逮夜」で、門前から御坊町一帯に市が並んでいました。また、午後には境内で餅まきなどもあつてにぎわっていました。今では時代も変わり廃れてしまいましたが、毎年4月14日には開基祭が行われています。(以下、次号に続く)

(南会所町 田中新之助)

(*以下の写真提供:奥谷直也様 無断転載禁止)



興正寺別院 鼓楼



興正寺別院 鐘楼



興正寺別院 御成門



興正寺別院 山門



興正寺別院 本堂



興正寺別院 対面所



ポイスカウトドイツ隊 富田林寺内町来訪 8月8日ドイツのポイスカウト隊が、山口市で行われた「世界スカウトジャンボリー」に参加後、富田林第1回でホームステイするためによつて来ました。一行は、男性リーダー2名、15歳から17歳の女子スカウト8名の10名です。全員12日間のテント生活の疲れも見せず、元気な様子でホストファミリーと一緒にそれぞれの家に向かいました。翌9日、寺内町を訪れ「杉山家住宅」などを熱心に見学し、そこの歩きを楽しみました。その後、交流館2階で先生の指導で習字をしました。初めてのことで苦労していましたが、最後は自分の名前を漢字化したものを清書しました。ころ、なかなかの字ばえに驚きました。昼食後、浴衣に着替えお茶会を催し、茶道を体験しました。日本の古い町家や伝統文化に触れることができたことで全員満足の日でした。(堺町 和田孝雄)

編集雑感

じないまち馬物語

大正生まれの母が十代の頃、陸軍信太山駐屯地の騎馬隊が演習で目的地へ向かうとき、富田林じないまちを通り、演習部隊は一般家庭に泊まり、食事を出してもらいながらの馬による移動訓練が毎年恒例の行事だった。位の高い将校さんには個室、その他の兵隊さんは相部屋、馬は駒つなぎへと、それぞれ分かれた。食事は、かやくご飯と漬物で決して豪華ではなかったが、ものすごい量を準備しなければならず結構大変だった。ちなみに馬のえさと食器、飲み水の容器は兵隊さんが持つてくるので、馬を預かる家の人は、水飲み場を提供し、一日だけの馬とのふれあいを持たせて。当時の兵隊さん達は「じないまち」での滞在をどう感じていたのだろうか。

「富田林寺内町をまもり・そだてる会」発足から21年。テレビ、新聞、雑誌、インターネット、口コミ等さまざまな情報で「じないまち」に興味を持つ人、訪れる人が増えてきたが、馬に乗った兵隊さん達が定期的に「じないまち」を通つていた過去を知れば、また新たなロマンを感じるのではないだろうか。(西林町 中井隆洋)

広報部会

- 部長 中井隆洋
- 副部長 田中新之助
- 委員 大塚健治
- 委員 和田幸雄
- 委員 柳本恵三
- 委員 和田孝雄
- 委員 尾谷正隆
- 委員 井上正勝

(順不同)